

# ら は た 探訪 歴史 クラブ

TAHARA  
History Inquiry  
Club

其の49

田原の「ご当地ソング」

歌は古来より、自然や神仏に捧げるばかりでなく、人々の娯楽の中心をなすものでした。戦後の復興に、歌によってどれだけの人が励まされ、そして希望を抱いたことか。また、ロックをはじめとした若者に支持される歌が時代を動かす原動力となった歴史もあります。

今月号のお題「ご当地ソング」は、いくぶん洗練されていない言葉かもしれません。ここでは、その土地にかかわりがあり人々に親しまれ、時代を反映する歌を指すものとしてお

話を進めましょう。

田原の「ご当地ソング」は、主に踊りを伴う民謡・歌謡的な歌のほか、町制施行などの記念に制作されたものがあります。レコード化されている音頭と呼ばれる振付・カラオケ付の歌が多いのは、やはり大衆芸能としての踊り、地域の娯楽としての盆踊りが盛んだったことを示しています。そのため、これらは観光協会が中心となって制作しています。しなやかな動きを伴う民謡から、田原市民まつりでおなじみの『じゃん田原りん』のようなリズムカルな歌



『赤羽根音頭』(左)と『新田原音頭』(右)

に変わってきたのも、移りゆく時代の要請なのでしょう。

昭和33年、田原町の合併を記念して制作された田原町民の歌『伸びゆく田原』(渡辺勉作詞・川上均作曲)、赤羽根町制30周年記念に制作されたあかばねイメージソング『今日も陽がかがやく』(さとう宗幸歌)も、忘れることはできません。

有名な児童文学者、石森延男の作詞した成章高校や神戸小学校の校歌、中田喜直が作曲した童浦小学校の校歌などは、作者の知名度の割にあまり知られていないでしょう。また、学校独自で歌い継がれているものも



『田原音頭・田原小唄』(左)と渡辺華山にちなんだ『花と茨』(右)

あると思います。

古くは自然発生的に生まれた歌もあるでしょうし、替え歌もあつたことでしょう。レコード化される以前の歌は、小澤耕一氏が『田原町史』においてまとめています。皆に支持され歌い継がれてきたものも残念ながら譜面がなく、どのような曲か今後忘れ去られてしまうのではないかと心配しています。

今後、このような地域にかかる歌の記録をする必要があるでしょう。なんといつても、地域の文化を支える市民の生活に活力を与えたものですから。いつか、これらの「ご当地ソング」が一堂に会したようすを見たいものです。(増山)

現在も知られる「ご当地ソング」

- 『じゃん田原りん♪じゃんだらりん』(ベイノン)
- Bey non よしき作詞・馬飼野康二作・編曲 H2 / 『今日も陽がかがやく』(さとう宗幸) S 63 / 『赤羽根音頭』(川崎千恵子) S 61 / 『赤羽根小唄』(不詳) / 『新田原音頭』(橋幸夫) S 60 / 『田原風音頭』(大谷友代) / 八木一夫 (S 52) / 『田原音頭』(田原小唄) 田原芸妓組合 (S 54) / 『花と茨』(井沢八郎) (S 44)

生涯学習課 ☎ 23局 3531